

平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立

中部小学校

学級数

8

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

まなびあう子「知の統合を目指す基礎基本の指導工夫と学ぶ力の育成」

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

- 1 取組のきっかけ
本校の実態として、基礎学力の未定着な児童が少なくない。そこで児童の学力を向上させるには、特に研究推進の工夫や授業改善などの取組を充実させることが必要ではないかと考えた。
- 2 取組の位置づけ
研究部が中心となり、教務部やその他の部と連携し、分掌の垣根を越えて進めている。
- 3 取組の方法
 - (1) 全学級による公開授業の実践
全担任が指導案を作成し、公開授業を行っている。お互いに授業を見合い、研究協議で切磋琢磨し、授業改善に努めている。
 - (2) 事前研・事後研の工夫（ワークショップ型の研究協議）
これまでの事前研・事後研の形式ではなく、昨年度からワークショップ型の研究協議を取り入れた。小グループに分かれ、指導案を大きく拡大した物に付箋を貼っていきながら意見を出し合い、改善策を考えるというスタイル。これまで行ってきたやり方より、意見も出しやすく、活性化することができた。
 - (3) T.Tの活用
授業でつまづいている児童への支援として独自に算数T.T（全学年週2時間）を活用している。
 - (4) 朝学習（チャレンジタイム・朝読書）8：25～35
本校では、朝の時間を有効に使う目的で、「チャレンジタイム（基礎基本の学習）」「朝読書」にそれぞれ隔週で取り組んでいる。
 - (5) CRTや学力テストの活用（2・4・6年）
結果を分析しながら、今後の指導や授業改善に役立てている。
 - (6) 学力・学習状況調査、チャレンジテストの活用
いち早く結果を出し、設問毎に課題となる部分を分析し、重点的な指導を行うなど授業改善に役立てている。
 - (7) 家庭への啓発・協働
「家庭学習の手引き」を作成し、各家庭に配付している。各学年に合わせた家庭学習への取り組み方を紹介し、家庭への啓発に努め、協働して学力向上に努めている。

取組の成果と課題等

○ 取組の成果

- ・ 全学級による公開授業の実践，事前研・事後研の工夫（ワークショップ型の研究協議）
（成果）→9～12月にかけて全学級による公開授業を行った。お互いに授業を見合い，協議を重ね，授業改善に努めることができた。また，昨年度から取り入れたワークショップ型の研究協議を今年度も行い，話し合いを深めることができた。
- ・ T.Tの活用
（成果）→基礎基本の定着に向けてT.T（全学年週2時間）の活用は欠かせないものとなっている。今後も継続して取り組んでいきたい。
- ・ 朝学習（チャレンジタイム・朝読書）8：25～35
（成果）→チャレンジタイムでは，研究教科である算数を中心の基礎基本の定着に向けて取り組んでいる。また，10月に2週間ほど「全校読書週間」を実施し，読み聞かせや読書標語作りなどに取り組み，児童の読書に対する意欲を高めることができた。
- ・ CRT，学力・学習状況調査，チャレンジテストの活用
（成果）→結果を分析しながら，今後の指導や授業改善に役立てることができた。特に，チャレンジテストについては，すべてに参加し，ウェブのグラフや各設問毎の結果分析とともに，個人の結果もエクセルファイルに入力することにより，個々の課題を明らかにし，指導に役立てることができた。今後も継続して取り組んでいきたい。
- ・ 家庭への啓発・協働
（成果）→「家庭学習の手引き」を作成し，各家庭に配付した。各学年に合わせた家庭学習への取り組み方を紹介した。また，児童の実態に合わせて，宿題も出し，家庭学習の一助としている。家庭学習の習慣が身につけている児童もいるが，不十分な児童も少なくない。今後も引き続き，各家庭への啓発が必要である。

○ 教育課程検証の方法

- ・ 表現力における意識調査「算数アンケート」（児童対象）を6月に実施し，同様の調査を12月にも実施し，現在集計中である。
- ・ 各学級の時数（週案）提出（毎週）→教務でチェック
- ・ 学校評価全般における検証
- ・ CRT，学力・学習状況調査，チャレンジテストなど各種調査による検証
- ・ 教員の授業評価による検証